



ひまわり

No.80

発行日 令和元年6月30日
発行者 葛飾区保護司会
発行所 葛飾区南水元2-13-1
水元学び交流館内2階
TEL 5876-3435

第
69
回

社会を明るくする運動

7月6日 土
午後1時より
かつしか区民の集い

更生を地域で支援

犯罪・非行の防止



更生ペンギン
ホゴちゃん

もどらない、もどさない

かつしか 区民の集い

令和元年7月6日 土 於 かめあり リリオホール

第1部 (13:00)

開会の辞 葛飾区保護観察協会会長
主催者挨拶 葛飾区長・東京保護観察所長
来賓紹介 区議会議長・衆参院議員
ハガキによるメッセージ報告
葛飾区善行青少年表彰
閉会の辞 葛飾区保護司会会長

第2部 (13:55)

少年の主張発表
アトラクション
区立南奥戸小学校金管バンドクラブ 演奏
区立奥戸中学校 ソーラン節演舞・和太鼓
フィナーレ 「愛をみんなで」
慰問品贈呈・抽選会

葛飾区更生保護 サポートセンター

はじめに、葛飾区保護司会の「葛飾区更生保護サポートセンター（以後サポートセン）」の開所の経緯について説明します。平成24年4月1日、都内で5番目となる「サポートセン」を水元に開所致しました。葛飾区保護司会では、開所する数年前より区長並びに区役所担当部署に「サポートセン」の必要性を説明し、交渉をしていました。平成23年9月、大田区のサポートセンを見学したいという話を区役所の担当者にし、岩田会長他5名の保護司とともに台風の中、大田区サポートセンを訪問しました。その後、区役所から受入の場所の提案があり、覚書を締結しました。平成24年12月1日より引き渡しを受けたのち準備委員会を設立し、5名の委員で開所に向け協議しながら、翌年4月1日の開所に備えました。書棚・机・椅子等は区役所より寄贈して頂きまし

た。事務機器（パソコン・コピー機・電話）、事務用品類は保護司会で調達し、無事開所することが出来ました。尚、使用料・管理費等は区役所に負担していただいています。



次にサポートセンの概況ですが、サポートセンは水元学び交流館2階の一室にあり、広さは約33㎡、室内にはパソコン2台・コピー機（複合機）・電話・冷蔵庫・レンジ・給湯器等が設置されて

います。サポートセンは当初、企画調整保護司8名でスタートしましたが、平成31年3月1日現在、16名（男女各8名）の企画調整保護司で運営しています。運営時間は月曜日から金曜日、午前10時より午後4時迄です。但し、学び交流館は午前9時より午後9時迄開館しています。施設使用にあたっては連絡をして、予約をする事により、30名程度の会議を開いたり、夜間にも使用することが出来ます。約10台の無料駐車スペースもあります。

サポートセンの活動内容については次のとおりです。サポートセンは一年を通して正副会長会・理事会・社実実行委員会・保護司選考委員会・新任保護司研修・合同定時総会・役員懇親会・東京拘置所矯正展実行委員会・管外研修・顕彰式典・合同新年懇親会等の打合せ、並びに関係団体の更生保護女性会やBS会等の会議や打合せ場所として利用されています。サポートセンに常駐している企画調整保護

司は、その時々案内状や配布資料・議事録等の作成を行っています。また、各部・各分区からの依頼があつた案内状等を一斉送信します。その他の活動として、電話での各種相談・問い合わせ対応・企画調整保護司活動日誌・保護司組織活動費内訳書・サポートセン当番表・区民相談室当番表の作成、サポートセン通信の編集発行、ホームページの更新・名簿の管理、資料の整理と保管等、会の運営に関する事務処理等があります。

サポートセンが開所された事により、更生保護の情報発信基地として、保護司同志の連携や情報の共有、事務処理能力が大幅にアップしました。サポートセンには保護司会に関する資料が多くある事から、これらの資料をまとめてどの様に管理し、活用していくのかが今後の課題です。また、サポートセンの存在や意義を地域の住民に知って頂くことも重要です。今後も保護司（会）活動や更生保護に関する情報提供を積極的に行っていく必要があります。

『ハガキでのメッセージ』

委員会の活動



葛飾区保護司会では、平成9年に起こった「酒鬼薔薇事件」のような少年による凶悪な殺人事件や傷害事件等が多発した事を鑑み、今を生きる子供たちの

思い・考えを理解したい、また学校とのより円滑な関係を醸成したいと考えました。当時の会長の提案により、区内の小・中・高等学校を通じて児童・生徒に「ハガキでのメッセージ」と題し取り組みました。テーマ『いのち』、サブテーマ『いのちを大切にしていますか！わたしのいのち・あなたのいのち・家族のいのちについて』として、それぞれの考え方・思いを返信していただいています。

学校連携推進担当保護司が全学校にハガキを届け、児童・生徒の皆さんが自分の考えを自由に書いて投函します。返信されたハガキを読み、7月に行われ

る「かつしか区民の集い」で中間発表、一部を紹介します。その後、ダイジェスト版・冊子の作成をします。ダイジェスト版は学年ごとの意見を一枚にまとめ、同学年の児童・生徒に、冊子は全意見を集約して、クラスごとに届けます。児童・生徒の皆さんで読んで話し合い、「いのち」について考えていただければと願っています。

今年度新しい試みとして、先生方にこの活動に対するご意見をいただきたいと、アンケートを実施しました。

平成30年度第19回では、4700通の返信がありました。教育委員会・各学校の先生方のご理解とご協力に感謝申し上げます。

本年度返信されたハガキより一部をご紹介します。(原文のまま)

ぼくはかぞくのためにがんばることがいのちをたいせつにすることだとおもいます(小1)

地震や大雨で急になくなってしまったいのちがあります。でも、ぼくは、このいのちを大切にしたいと思います。(小3)

私たちは、人の命が大切なのはみんなも分かっていると思います。ですが動物などはどうでしょう。例えばペット。ペットを飼っていて、途中で飼えなくなりました。動物保護所にあずけず、捨ててしまうと、どうなるでしょう。人だけでなく動物も植物も掛け替えのない命があるのです。(小6)

最近よく人に「死ね」と言う人がいるけど、もしあなたが死んだらあなたの家族はどう思うだろうか？そしてあなたが「死ね！」と言った人が死んだらその家族はどう思うだろうか。(中1)

つらい事も楽しいこともたくさん経験したからこそ、一人一人の存在は大切だと私は思います。だからこそ一人一人の考えや意見を聞くことで自分も成長していけると思えます。こうやってつながっていくことも命だと思います。(中2)

今、この世にあるいのちは一つ一つが無二の物で、何者かによつて奪われてはいけません。(中3)

この日本には約一億二千万の命がある。そのいのちの一つ一つには人それぞれの個性があると思う。すばらしい個性を自ら壊してしまってもいいのだろうか。ましてや人がその個性をあやめてもいいのだろうか。もう一度命について考えてほしい。(高1)

一つの命は二つの命から作られて今いきているんだと思います。一人じゃ生きていけないのと同じで、自分が支えられた分、誰かを支えることが命じゃないかと思っています。(高2)

「子どもたちが、未来に進む力になりたい」LFA平川ちひろさんは語ります。

LFAは、困難を抱える子ども達を対象に、二〇一〇年に葛飾区で学習支援事業を開始し、二〇一六年からは「学校でも家庭でもない第三の居場所」を提供する子どもの家事業を開始し、小中学生を中心に居場所支援を実施してきました。



かつしかこども食堂ネットワークでは9ヶ所の食堂が活動しています。その中の一つ『わっはの庭』を訪ねました。運営母体はNPO法人 Learning for all です。(以下LFA)

学習支援について

大学生ボランティアたちが主体となって、放課後や土日に直接指導するというものです。熱い思いを持って向き合ってくれる大学生ボランティアの先生は子どもたちにとって年の近い良いモデルにもなります。彼らとの出会いが子ども達にとって、生き方を考えるきっかけにもなっています。

居場所支援について

基本的な生活習慣に課題がある子どもや、複雑な家庭環境や本人の特性により人とのコミュニケーションや学習面に課題がある子どもなどが安心していられる居場所作りに取り組んでいます。特徴は安心な居場所として、14時から20時まで、スタッ



フや友達と一緒に過ごせることです。学習のサポート、遊び、読書活動、生活リズムづくりをしなが、成長の基礎となる様々な生活・学習習慣を身につけ、自主自立の心を育てます。

葛飾区でも居場所支援を二〇一八年から開始しました。従来の居場所支援の支援内容に加えて、「みんなの食堂」という子ども食堂を開催しています。みんなの食堂は、地域の人も参加することができて、ワイワイ暖かな空間の中で、安心してご飯を食べることができま

月に2回の第二・第四木曜日の16時から19時まで、葛飾区お花茶屋駅前近辺で開催しています。料金は、子どもは無料、19才以上は300円です。運営費は、

日本財団はじめサポーター企業、個人の寄付金が主となっています。又、食材の寄付もお願いしています。スタッフは、3人、ボランティアは3名以上でみんなの食堂の運営に関わっています。メニューもスタッフで決めており、栄養バラ

スがとれた料理を毎回30食程度用意しています。

食堂に参加した子ども達にとつて、参加している地域の人の交流を通じて、地域で信頼できる大人と出会える機会と場になればと考えています。

「地域の人から『あそこに来ず行つてごらん』と言われる場所、子どもたちに『ここに来れば安心する・楽しい』と思ってもらえるような空間にしていきたいです。」と平川さんは話をしてくれました。

ネットワークの各食堂は、個人や団体が無料または低料金で食事を提供しています。

食堂の開催日、参加方法等は、各食堂ごとに異なっています。



平成時代が 終わって

五月一日(火)平成時代の幕が下りて令和時代が始まりました。平成天皇は、江戸時代後期の光格天皇以来二百年ぶりの「生前譲位」される事になります。

昭和六十四年一月昭和天皇が崩御され平成時代が始まりました。平成元年六月中国で天安門事件、十一月にベルリンの壁が崩壊、日本は十二月バブルの頂点に株価は三八、九五七円に達しました。平成元年は激動と混乱の内に始まりました。

大地震・原発事故・台風があるとを絶たず、後年「平穏でない時代」と言われるかも？

しかし天皇陛下は、即位以来三十年間を振り返りのお言葉で「国内では、平成が戦争の無い時代として終わろうとしている事に心から安堵しています」と述べられました。私もその通りだと思います。

願わくば、「令和時代」は災害も無く紛争・戦争も無い時代となつてほしいものです。



シリーズ
葛飾さんぽ⑬

奥戸 宝蔵院

宝蔵院の概要
名称 青田山 和光寺
宝蔵院

寺伝によると、応永二年(一三九五)の創建。天文七年国府台の合戦の兵火のため焼失し、慶長十七年(一六一二)の再興。八剣神社の別当を兼ねていたこともある。寺宝の一つとして、正和四年(一三一五)の板碑を所蔵している。
住所 葛飾区奥戸八ノ五ノ十九
本尊 阿弥陀如来
宗派 真言宗豊山派
備考 南葛八十八番霊場七番札所

縁起
木造薬師如来立像(葛飾区指定文化財)

宝蔵院薬師堂の本尊として安置されています。台座・両手ともすべて一本の木から彫刻された一本造りで、左手胸前で薬壺を持っています。像の高さは22.5センチ、光背は31.8センチです。

宝暦のころ、王政復古を唱え、その後の尊王思想に影響を与えた竹内式部の門下で徳大寺公城の家臣である本堂良喜は、宝暦事件(一七五八年)の際京都を追われ、当寺に身を寄せていました。その良喜の後を追ひ、公城の娘妙姫は師の式部から拝領の薬師仏を背負いやってきました。竹内式部が獄死した後、二人はこの地に堂を建て薬師仏を安置し師の冥福を祈ったと伝えられています。この像が式部薬師と呼ばれ古くから万病と縁結びの仏様として信仰されているのは、このような由来によるものです。



大鐘楼堂(和光の鐘)

昭和三十八年中川放水路完成記念として建立されました。両名の供養と当時における各水難者の霊を供養の為に建てられました。傍らに鐘楼の由来を刻んだ作家井上靖氏の記念碑が建てられています。

柳原白蓮碑

境内に 愛を貫ぬぎ、自らを生きた、美しき情熱の歌人 柳原白蓮直筆の碑が建立されています。

彼岸花

秋には、境内に都内一と言われる曼珠沙華(彼岸花)が咲き、多くの写真愛好家が訪れています。



二十年間を ふり返って

葛飾区保護司会金町分区分

栗原 忠夫

平成十一年五月十五日に亀青分区分の山口保護司、水元分区分の石出保護司と私と三名が保護司として拝命し、二十年間、観察官と保護司の皆さまとの暖かい御指導と交流のお陰にて、無事大役を終わることが出来ました。

現在と比べて、二十年前の区内の犯罪件数、犯罪率は多くて、就任早々、まだ未熟で不慣れな時にいきなり十代の青年の担当をした事が思い出されます。スーパーでの窃盗の軽犯罪で、執行猶予期間中は何度も自宅へ往訪し、ご両親と共に更生に励んだ事が思いに残っています。今は立派な成人として社会人として活動されています。当時青年であった彼は、未だに毎年年賀状を頂き、時々、挨拶旁々、立寄ってもらっております。保護司として冥利に尽きる事でありです。

しかしながら、七十一歳の時、健康には自信があった身が胆管癌となり、大きな手術をして一命を取り戻し、今日迄生き続けていますが、それからは保護司活動に力が入らなくなり、保護司の皆さま方、特に分区分の皆さまには大変ご迷惑をおかけしました事を、この紙面を借りて心よりお詫び申し上げます。二十年間、助けられ無事に終えられ誠にありがとうございました。

寄りそうところ

(保護司Y)

私が初めて対象者を受け持つことになったのは、拝命をうけてから僅か三週間後のことでした。観察官より対象者の資料が届き、「早急に本人と連絡を取り面談をするように」とのこと

でしたが、バッチをいただいただけの私は、資料の読み方、面談で注意すべき事など、全く想像ができません。

そんな私に対し、対象者の資料の重要なポイントが書かれている箇所や、面談時においての最低限確認すべき事など一つ一つ丁寧に指導して下さいたのは、分区分長でした。

バッチをいただき対象者を受け持つ以上、新人であるなどと甘いことは言っていられないと考えていた為、当時の私は対象者に自分が新人である事を見透かされない様、もつともらしく振る舞ったりしておりました。しかしながら、内心では自分の指導によつて、「更生または再犯」と対象者の人生が真逆になってしまうのではないかという不安

と、責任の重さに非常に悩んでおりました。そんな私に対し、「どんなに熱心に指導しても、再犯をする対象者はおり、それは対象者自身の問題であり、対象者自身の責任である。」と励まし指導して下さいたのも、分区分長でした。

現在拝命されて一年が経過し、初めての対象者ともお別れが近づいているのかなと感じているこの頃ですが、当時「対象者を指導する」などと言っていた事を思い出すと、自分自身の傲慢さにあきれ反省するばかりです。分区分長をはじめ諸先輩方の日々の活動を間近で拝見し、対象者に対し最も大事な事は、「寄り添うところ」であり、指導するなどという上下の関係ではないのです。まだまだ走り始めたばかりの未熟な保護司ではありますが、諸先輩方の背中になしでも近づける様、日々努力したいと思えます。

再犯防止にむけて

刑法犯の認知件数は平成十四

年をピークに減少し、平成二十

九年には戦後最少を更新するな

ど、犯罪予防活動はその成果を

上げつつありますが、一方で「再

犯者率」は上昇の一途を辿って

おり（資料①）、更なる安全・

安心な社会を実現するためには、

犯罪等をした人達の再犯を

防止することが重要な課題と目

されるようになりました。

政府の調査により、仕事のな

い人の再犯率は仕事のある人の

三倍であること（※資料①）や、

満期釈放者の約半数が適当な帰

住先がなく、その帰住先のない

者で再度刑務所に入った人の約

六割が、出所後一年未満で再犯

をしていること（※資料②）が

分かってきました。また、再犯

という側面から、覚せい剤取締

法違反における出所者が五年以

内に再度刑務所に入っている統

計（※資料③）や、我が国の高

齢化という側面から、刑事政策

の面においても、刑務所におけ

る六十五歳以上の入所者の割合

が、ここ約二十年間で約五倍増

えているという統計（※資料④）

に注目が寄せられました。

これらの調査結果を踏まえ、

政府による様々な再犯防止の取

組がなされ、平成二十八年十二

月に再犯の防止等の推進に関す

る法律が施行（資料②）、翌年

十二月には同法に基づく国の再

犯防止推進計画（資料③）が策

定され、国と並んで地方公共団

体が再犯防止施策の主体として

位置付けられ、地

方再犯防止推進計

画を定める努力義

務が課せられまし

た。

既に東京都千代

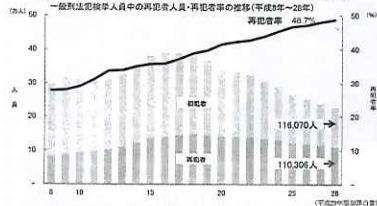
田区が、今年の三

月十八日に再犯防

止推進計画を策定

資料 1

刑法犯により検察された者の数は、ピークの平成14年に比べ、約16万人減少（約23万人→約7万人）
再犯者の数は、ピークの平成14年に比べ、約23万人減少（約14万人→約11.2万人）
一般刑法犯受刑者中の再犯者（再犯率）は、平成14年（約48.7%）から平成28年（約25.9%）まで減少傾向にある。



初犯者が大幅に減少しているのに対し、再犯者の減少は小幅にとどまっている。検挙人員に占める再犯者の割合（再犯率）は、一貫して増加を続けている。

資料 2

再犯防止に向けた取組の経過

約3割の再犯者によって、約6割の再犯がなされている（平成14年検挙人員）
→ 出所者等の再犯防止は、政府全体の課題であるという認識

平成24年7月 犯罪対策閣僚会議で「再犯防止に向けた総合対策」が決定
政府として初めて、再犯防止に関する数目標を掲げた長期的・総合的な政策を決定

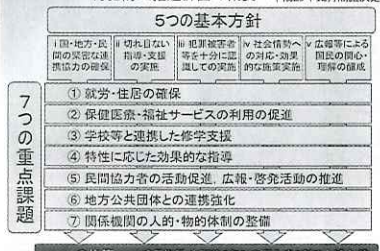
平成26年12月 犯罪対策閣僚会議で「再犯防止に関する基本的な考え方」が決定
内閣府は、社会復帰の上で必要となる「住居」「生活」「就業」の確保のための施策を推進する。経費等の削減に努める。再犯防止の推進に関する施策

平成29年7月 犯罪対策閣僚会議で「再犯防止に関する基本的な考え方」が決定
立ち回り支援員を配置する施設（更生院・少年院・少年補導院・少年補導院等）が、刑事司法制度の観点から、社会に必要とされている。支援員を配置する。再犯防止の推進に関する施策

平成28年12月 再犯防止の推進に関する法律が成立・施行
都道府県及び市町村についても、地域の状況に応じた再犯防止施策を策定し、実施する責務を規定

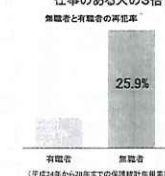
資料 3

再犯防止推進計画の概要 平成29年12月閣議決定



※資料①

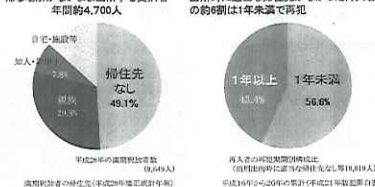
仕事のない人の再犯率は
仕事のある人の3倍



社会で自立した生活を送る上で必要となる
適切な就労を確保できるが鍵

※資料②

帰る場所がないまま出所する受刑者
年間約4,700人

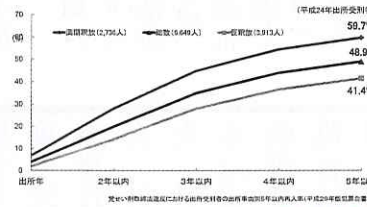


適当な帰住先がない出所者等が多く、
円滑な社会復帰に向けた「住居」の確保が重要

※資料③

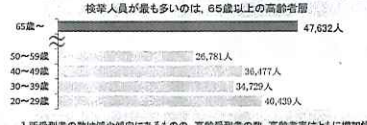
薬物事犯者の状況

- 覚せい剤取締法違反の検挙数は毎年1万人を超え、近年、検挙者数が増加
- 薬物事犯者の多くは、犯罪者であると同時に薬物依存の問題を抱えている

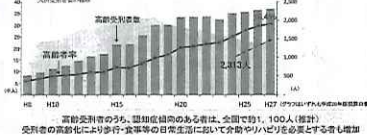


※資料④

検挙人員が最も多いのは、65歳以上の高齢者層



入所受刑者の数は減少傾向にあるものの、高齢受刑者の数、高齢者率はともに増加傾向



高齢受刑者のうち、認知症傾向のある者は、全国で約1,100人（推計）
受刑者の高齢化により、多岐にわたる生活支援が必要となることも増加

会務報告

〔人事の件〕

○新任保護司 5名
平成30年12月22日付



鈴木久美子殿
(奥戸分区)



安藤 慎二殿
(亀青分区)



飯嶋 敏和殿
(南綾瀬分区)



江口 昭藏殿
(南綾瀬分区)



鈴木 俊明殿
(南綾瀬分区)

○退任保護司(任期満了)

塚田 和雄殿
山口 靖子殿
栗原 忠夫殿

令和元年 定時総会

葛飾区保護観察協会と葛飾区保護司会の合同定時総会が5月14日開催されました。

岩田敦子保護司会会長は、「30年度の重点方針を基にして一年間活動してまいりました。再犯防止に関しては、観察所、区の行政が一緒になって考えていただかないと前進しません。保護司の安定的確保、地域への効果的な広報やサポートセンターの活動は、独自色が出せていると考えております。」と挨拶しました。観察協会の本宮副会長は「皆様のご協力ご理解をいただき、活動を続けていきたいと考えています。」と話しました。

その後議事に移り、30年度事業経過報告、収支決算報告、監査報告が審議了承されました。続いて令和元年度事業計画、事業予算、役員改選各案が示され審議了承されました。

令和の保護司会

会長 岩田 敦子

今年度は更生保護制度が制定され七十周年を迎えると共に新しい令和の保護司会活動がスタートしました。会の運営に携わる保護司の年齢も最近若くなってきたり、これから経験を積み活動の中心になっていけるように全員で協力し、何をするべきかを模索して進めてまいります。

葛飾区保護司会での取り組みとして再犯防止施策に対する行政との連携、犯罪予防活動としての青少年の健全育成、高齢者の居場所の確保と福祉サービス等への円滑な橋渡しや地域での環境浄化に向けてと問題が山積しております。全てにおいて行政、自治体、また地域の方たちとの連携を強固なものにしていくことと、新しい考えに耳を傾け、改革と目標を定めて知識を身につけ活動をしていきます。

課題としては更生保護を理解していただき、たくさんの方が保護司に就任していただき、存在感のある組織になるようご協力お願い致します。

令和元・二年度 役員紹介

会長	岩田 敦子
副会長	内田 昌宏
副会長	柴田 清
副会長	佐藤 日賢
副会長	矢作 和昭
事務長	長谷 敏彦
会計	澤口 輝幸
会計	山崎 博久
本田分区長	池上 孝
南綾瀬分区長	柳田 徳男
亀青分区長	山田 安孝
新小岩分区長	二瓶 晃一
奥戸分区長	松本 實
金町分区長	森山 晴男
水元分区長	八幡 俊昭
研修部長	木村 明洋
地域活動部長	香山 伸一
広報部長	松井 宥孝
協力組織部長	菅原 道生
社会貢献活動部長	齋藤 英子